

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和4年度分)

＜県の評価等＞

施設所管部名： 農林水産部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	伊賀上野びよクエの森(三重県上野森林公園) (伊賀市下友生字松ヶ谷1番地)
指定管理者の名称等	NPO法人 ECCOM 理事長 森 豊(三重郡菰野町千草 3927-1)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 森林公園の森林、植物等の管理に関する業務 2 森林公園の施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務 3 森林公園の施設、設備の利用に関する業務 4 自然体験型イベントの実施に関する業務 5 ホームページ等による森林公園内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務 6 生物多様性の保全に配慮した取組に関する業務 7 その他森林公園の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R3	R4	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B			普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常箇所早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めている。 また、森林の整備は公園ボランティア「モリメイト」との協働により適切に行われている。
2 施設の利用状況	A	A			年間利用者数の目標達成率は、A評価基準を上回り 141.5%(116,026人)となり、評価できる。
3 成果目標及びその実績	A	A			施設満足度(目標 80%に対し 93.3%)、自然体験型イベントの満足度(目標 92%に対し 96.4%)ともに目標を達成した。

※「評価の項目」の県の評価：
 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>① 成果目標については、年間の施設利用者数、施設利用者の満足度、自然体験型イベント参加者の満足度の全ての指標で目標を達成している。</p> <p>② 森林、植栽木、花壇等の植物管理を適正に実施し、良好な景観の維持に努めている。利用施設の保守点検、日常点検、清掃を適正に実施しており、利用者が安全で快適に利用できる環境を整えている。</p> <p>③ 森林公園利用者のために、インターネットによる広報や利用受付を行い、イベント情報を中心とするメールマガジンを希望者へ配信するなど情報発信を積極的に行っている。また、伊賀地域の小学校、幼稚園、保育園等の子ども達を対象とした自然体験プログラムを開催するなど、森林教育の場としての園内利用のPRに努めている。</p> <p>④ イベントについては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、観察会等の自然体験型イベントやものづくり、展示会等も含めて、137回(このうち自然体験型イベントは133回)開催しており、自然体験型イベント参加者の満足度は96.4%と高く、積極的に自然とふれあう場を提供している。</p> <p>⑤ 公園ボランティアの「モリメイト」との協働で森林の整備を実施し、動物(野鳥、昆虫、小動物)への影響も含めた生態系に配慮した管理を行っている。また「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除等の取組を行っており、生物多様性の確保に努めている。</p>
--------	--

- | | |
|--|--|
| | <p>⑥ 業務執行体制については、事務分担・責任の所在を明確にするとともに、職員を森林公園管理事務所に常勤として4名、非常勤として2名配置している。また、危機管理に関しても、マニュアルを作成し、自然災害や公園内での事故対応及び報告体制を平日・休日ともに整備し、適切に対応している。</p> <p>⑦ 利用者のニーズにあった公園管理を適切に実施したことにより、令和4年度においても全ての目標を達成し、森林、環境学習のための利用者の増加や、より良いサービスの提供につながられている。今後も引き続き、利用者の満足度向上につながる新たなサービスの提供に取り組まれない。</p> |
|--|--|

<指定管理者の評価・報告書(令和4年度分)>

指定管理者の名称: NPO法人 ECCOM

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 三重県上野森林公園管理事業の実施に関する業務

誰もが日常から気持ちよく来園できるよう、植物管理、施設管理をはじめとした園内管理を徹底するとともに、「三重県上野森林公園」の持つ自然環境を最大限に活用したイベントを実施することにより、公園のPR並びに来園者の増加に努め、以下のような事業を行った。

ア) 三重県上野森林公園の施設及び設備の利用に関する業務

- ・窓口業務として、日常的に来園者からの自然情報や公園利用に関する問合せに対応し、開花状況の提供や散策ルートなどの提案を行なった。また、電話やメールによる各種問い合わせの対応を行い、利用者サービスに努めた。さらに、イベント申込の利便性を高めるため、新たにスマートフォンやパソコンからの自動受付のできる予約サイトを導入した。
- ・園内各施設の団体利用に関して、窓口での利用申請受付のほか、インターネットによる広報、受付を行い、事前に施設の情報提供や利用に係るノウハウの提供を行った。また来園者の要望を受け、職員が自然観察ガイドや自然体験教室を実施するなど、利用者へのサービスに努めた。
- ・感染症対策として、ウェブサイトや園内の掲示などで新しい生活様式に則った利用を啓発するとともに、園内の利用の多い場所にアルコールを設置し、手指の消毒を励行した。また利用の制限などについて、利用者に混乱が起きないように、その都度分かりやすく案内できるよう掲示や広報・案内等を行った。
- ・ビジターコテージ展示室では、図書コーナーと木製の遊具を設けたことで、館内の滞在者数、滞在時間ともに増加し、好評を得ることができた。また、本物の生きものを間近で見てもらう機会を拡充するため、両生類や昆虫類の飼育技術を持ったスタッフが中心となり、さまざまな生きものの生体展示を行った。具体的には「アカハライモリ」・「アズマヒキガエル」・「ヒョウモントカゲモドキ」(4月～3月)、「アマガエル」(4月～11月)、「カブトムシ」(7月～9月)などの生体展示を行った。特にビジターコテージ玄関口に設置している「アズマヒキガエル」の展示は、野外で捕まえたエサを自由に与えられる体験型の展示となっており、子どもから大人まで多くの来園者に好評であった。
- ・展示室では、「春の公園スケッチ展」(4月)、「オオサンショウウオ調査活動パネル展」(4月～5月)、「秋のワードラリー」(11月～12月)などを開催した。ビジターコテージホールでは、季節に合わせた展示を設置するなど、来園者が何度来ても楽しんでもらえるような工夫を常時行い、それによりリピーターの増加につながった。
- ・ビジターコテージ周辺では、ハンモックやトランポリン、竹や木でできたおもちゃを設置した。また、稲の成長とメダカやオタマジャクシなど水棲生物を間近に見られる田んぼビオトープの設置など、子どもが遊ぶだけでなく、大人も楽しめる仕掛けと雰囲気をつくった。それにより、子ども連れの家族を中心に多くの来園者がゆったりと過ごす様子や、居合わせた大人同士で会話が始まる様子が見られた。
- ・くつろぎのスペース作りとして、コテージのテラスや見晴らしの良い前庭、陽だまりの丘など季節ごとのオススメの場所にガーデンテーブルとチェアのセットの設置を行った。また来園者の要望により設置数を増やしたところ、大人の来園者の利用が増え、これまでの利用形態として主流であった「ウォーキングや自然観察」から、さらに「くつろぎの場所としての公園」という新たな利用形態の定着が促進できた。
- ・開園から24年が経過する中で、園内に多数設置されている注意看板が劣化し、自然景観が損なわれていることが課題となっていた。そのため令和2年度より「公園の自然と調和し、親しみやすいデザイン」をテーマとしてリニューアルを進め、令和4年度は前年度にリニューアルしたフィールドマップと現地のわかる標識(36箇所)について来園者にヒアリングを行い、よりわかりやすいように改良を加えて利便性を向上させた。
- ・セルフで公園を楽しめるプログラムとして「ハンモック」、「双眼鏡」の無料貸出しを実施した。親子連れを中心に大変好評を得ることができ、新たな公園の魅力が付加されることにつながった。
- ・コロナ禍で自然とのふれあいを求め、来園される方が大幅に増加したことに対応し、自ら公園を楽しめる仕組みとしてセルフガイドボードを設置した。季節ごとに見所を選定し、延べ約30箇所に設置をおこなった。それにより「これまで公園を歩くだけだったが、いろんな新しいことを知ることでより楽しめた」という声が多く聞かれた。また公園のシンボルであるサギソウの開花時期に合わせ、大駐車場からサギソウ園まで道標を設置したところ、多くの方がサギソウ園を訪れ、花を觀賞する様子が見られた。

- ・ビジターコテージ研修室及びサブコテージの休憩室の有効利用として、公園でイベントを行う時間外に部屋の貸し出しを行い、延べ 60 団体の利用があった。
- イ) 自然体験型のイベント及びプログラムの実施に関する業務
- 感染症対策を徹底した上で、137 回のイベント（うち自然体験型イベントは 133 回）を実施した。また満足度は 93.3%（自然体験型イベントは 96.4%）となり、昨年を上回った。今年度のイベント休止の要請がなく、感染対策を行いつつイベントを開催する仕組みが整ったことが要因と考える。
- ・自然体験イベント

令和3年度に引き続き、「伊賀や三重の自然の面白さや大切さを子どもたちに感じられる」プログラムを開催し、特に「直接生きものと触れ合える機会」を多く取り入れるよう企画した。具体的には「昆虫観察会」（4月、6月、9月）、「田んぼの生き物観察会」（5月）、「カエルを飼おう！」（6月）、「メダカを育てよう」（7月）、「セミの羽化観察会」（8月）などのイベントが挙げられる。

これらのイベントは令和4年度も申込が多くアンケートの満足度も高かったことから、参加者のニーズと学習効果の高さを再確認できる結果となった。また、外部講師を招いた「藍の生葉染め」（8月）、「星の観察会」（10月、1月）、「ウッドベンチ作り」（3月）などを開催した。
 - ・子どもの生きる力や主体性を育むイベント

令和3年度より、「参加者が自ら考え、試行錯誤するなかで生きる力や主体性を育むことのできる企画」をスタートした。令和4年度は、第2弾として「お楽しみ森の学校」（9月～12月に5回）を開催した。子どもたちは、里山のフィールドで、自分で楽しいと思うことを考え、自分の力で形にするという内容のプログラムを実施した。最終回には子どもたちが自らの力でツリーハウスの増築や、ササの秘密基地作り、自然素材を使った遊び道具の創作など、自分の描いた夢を自らの力で実現した。

子どもが伸びやかに活動できるなかで、大人も驚くような能力を発揮することが実証された貴重なプログラムとなった。
 - ・コロナ禍における子どものストレス解消などを目的としたイベント

コロナ禍が続くなか、子どもたちのストレス解消や健康維持の目的も含め、感染対策に配慮しながら自然体験イベントをできる限り数多く開催し、コロナ禍以前と同程度の開催数となった。
 - ・近隣のグループや団体との共同イベント

乗馬体験（4月）、「オオサンショウウオ調査活動パネル展」（4月～5月）などのイベントを開催した。ボランティアグループであるモリメイトとは「くぬぎの森づくり」（11月）、「しいたけ菌打ち体験」（2月）を協力して開催した。また、近隣小学校（9月、10月、11月）や児童福祉会（10月）にネイチャークラフトの出張プログラムを行った。
 - ・子どもが地域の自然環境に興味関心を持つきっかけを広く提供するイベント

伊賀市の小学校、保育園、市民センターなどを対象に、15回の自然体験プログラムを開催し、計500名の子どもたちにプログラム提供を行った。
 - ・「森林とふれあう自然公園環境整備事業」によるイベント

参加者が工事を請け負った会社の大工とともに、水辺のテラスのウッドベンチを設置した。公園に残るものを作成する企画で、参加者から好評だった。
 - ・感染症対策について

参加者には事前に対策方法を告知するとともに、イベントで感染者が発生した際、迅速な対応ができるよう全参加者の連絡先を確認し、当日は、朝の検温、手指の消毒、マスクの着用を徹底した。また実施中も密になる状況を作り出さないよう留意した。
- ウ) 三重県上野森林公園内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務
- ・スマートフォン利用者の増加に対応し、モバイル端末でもイベント情報等をタイムリーに提供できるように発信した。令和4年度はウェブサイト、Facebook 及び Instagram を合わせて 213 回(令和3年度は 211 回)の更新を行った。また令和5年2月から公式 twitter の更新を開始した。
 - ・イベント情報を中心とするメールマガジンを、イベント参加者やウェブサイトからの希望者（456 件）に、原則月 1 回配信した。公園の自然情報及びイベントの取材が 26 回あり、毎月発行される情報誌に公園の自然情報が掲載された。また、伊賀ケーブルテレビの「ICT コネクト（ライブ中継機能（録画配信）」）で、公園自然情報「てくてく発見！大自然」が配信されたことにより、公園の認知度が向上した。

- ・主にイベント情報を掲載したチラシである「上野森林公園通信」（A4フルカラー）を、伊賀市内の小学校の全生徒へ1、2ヶ月に1回配布を行い、公園の近隣地域に積極的に情報を発信した。令和4年度は全7回の配布（累計約32,500部）となった。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・植物管理、清掃管理、日常点検、建物施設などの定期点検、巡回警備、修繕業務などにより、施設を清潔かつ快適に維持し、機能を適正に保持するとともに、異常箇所の早期発見により、来園者の安全な利用を図れるよう努めた。
- ・植栽木は、適正な剪定を行うことにより良好な景観の維持に努めた。日常的にウォーキング等で訪れる利用者からは「園内に多数ある生垣の管理がよくなった」という声を多く聞くことができた。森林内の植生管理については、コナラの部分枯れやアカマツの立ち枯れが目立ったため、モリメイトと協力して100本以上を伐倒処理し、リスクマネジメントに努めた。
- ・ビジターコテージ周辺の花壇は、季節ごとにガーデンの花を楽しめるよう育成を行った。シカの被害の少ないマリーゴールドやサルビア、セージ、ラベンダーを中心に植栽を行い、年間を通して花壇を彩ることができた。これにより花を愛でながら休憩する方、花を前に記念撮影される家族など、多様な来園者がコテージ周辺で思いおもいに過ごす様子を見ることができた。
- ・園内設備については、建設から24年経過しているために多くの場所で老朽化が進んでおり、今後も修繕の必要箇所が増加すると思われる。公園内に多数ある木柵、木道、木階段などについては補修必要箇所の発生ごとに、随時補修作業を進めている。

③ 県施策への配慮に関する業務

- ・新型コロナウイルス感染症の蔓延により、三重県より「新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた三重県指針」が出され、各時期において更新されたが、その都度、来園者への対応やイベント利用者に適切に対応した。
- ・「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除などに努めた。乾燥化が進んでいる湿性植物園において、試験的にハンノキの抜根を行った。また、生物多様性の普及啓発に努めたほか、三重県の野外体験保育事業の推進を図るため、子育て支援団体と協力し「てくてく探検隊」を年間23回を定例開催した。
- ・みえ森と緑の県民税を活用した「森林とふれあう自然公園環境整備事業」を受託し、イベント開催とともに森林教育活動を行った。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・「三重県上野森林公園の管理に関する情報公開実施要領」を策定し、対応した。
令和4年度請求件数：0件

⑤ その他の業務

- ・令和4年度における事故は0件であった。

(2) 施設の利用状況

公園施設全体の利用者数	成果目標 82,000人	令和3年度実績 113,493人	令和4年度実績 116,026人	達成率 141.5%
顧客満足度	成果目標	令和3年度実績	令和4年度実績	達成率
① 施設利用者	80%	92.8%	93.3%	116.6%
② 自然体験型イベント参加者	92%	95.5%	96.4%	104.8%

2 利用料金の収入の実績

指定管理をしている箇所で利用料金を徴収している箇所はなし。

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	R 3	R 4		R 3	R 4
指定管理料	27,563,000	27,563,000	事業費	3,013,574	3,487,198
利用料金収入	0	0	管理費	26,117,285	25,188,394
その他の収入	1,102,000	1,331,658	その他の支出	0	0
合計 (a)	28,655,010	28,894,658	合計 (b)	29,130,859	28,675,592
収支差額 (a)-(b)	△465,849	△ 219,066			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	施設利用者数	施設利用者の満足度	自然体験型イベント参加者の満足度
成果目標	82,000 人	80%	92%
成果目標に対する実績	116,026 人	93.3%	96.4%
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数について 目標を大きく上回り、過去最高の利用者数を記録した。月別においては5月、10月、11月、3月が過去最高となっている。これは令和元年度から伊賀市内の全小学校に、「上野森林公園通信」をほぼ毎月配布する事業を始めたことによる効果のほか、コロナ禍における健康維持ニーズが継続しているためと考えられる。利用者へのヒアリングでは、SNS、特に「instagramを見て来園した」という声が多かった。令和5年度は世代に合わせた効果的な情報発信手段の選択と利用に取り組む他、地元のケーブルテレビと連携し、近隣市民に向けた公園利用の情報提供やPR活動に取り組む。 ・イベントについて コロナ禍により減少していたイベントの実施回数もコロナ禍前と同程度となった。満足度も高水準が維持され、プログラムの質の向上に努めた結果といえる。一方でまだ手薄となっている、小学生を対象とした自然体験から深い学びを得ることができるプログラムや発達障がいを持つ子ども、外国人の子どもを対象としたプログラムの拡充に取り組む。 ・セルフガイドの充実 来園者が散策しながら自ら自然のことを学ぶことができる「セルフガイドシステム」の効果的な運用に努める。現在約30箇所にセルフガイドボードを設置しており、季節で変化する公園の見所に合わせ、自然の美しさや面白さ、不思議さに気づききっかけとなるような内容を考えている。また、セルフで楽しめるウォークラリーの開催のほか、公園を楽しむツールとして、ハンモックや双眼鏡の貸出なども積極的に行う。 ・公園利用方法の提案 来園者に公園を自由に散策してもらうだけでなく、季節ごとのオススメの場所や散策コースの紹介、公園の新しい楽しみ方の提案などの情報発信を積極的に行い、公園の魅力度のアップに努める。 ・自然環境について 園内は湿地が多く、特殊な環境にしか育たない希少な動植物が多数生息している。その中で外来種の侵入や遷移などの影響により、湿地環境が悪化している場所も多く存在する。そのため外来種の駆除や湿地環境の整備、園内の希少種や在来動植物群の再生を継続的に行う。また、湿地の再生活動をイベントとして企画し、参加者と共に湿地の生物調査や湿地の造成を行う。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の景観について 「公園の自然と調和し、親しみやすいデザイン」というテーマを継続し、特に利用者から要望の多い老朽化した各種案内看板のリニューアルを順次進める。花壇はシカによる食害が少ない花を中心に育成し、四季折々華やかになるような管理を行う。 ・ボランティアについて ボランティアグループであるモリメイトについては、引き続き広く広報するとともに、楽しめる活動を行うことで会員を増やしていく。特に若い世代の加入者を増やし、活動を活性化させる。
--	---

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B	普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常箇所早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めることができたが、まだ修繕の行われていない箇所についてはより注意していく必要がある。
2 施設の利用状況	A	A	年間利用者数の目標達成率は、A評価基準を上回り141.5%となった。
3 成果目標及びその実績	A	A	施設満足度、自然体験型イベントの満足度ともに目標を上回ることができた。

※評価の項目「1」の評価 :

「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 業務計画を順調に実施している。
「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 :

「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 当初の目標を達成している。
「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>公園の利用者数は、昨年度に引き続き過去最高を記録した。多様な世代の利用が見られ、特に平日の母子での利用が増加した。気軽に親子で自然を楽しめる場所として認知が高まっているといえる。日常的に利用される来園者も増加するなか、ベンチやテーブルなどを設置した憩いの場や、ビオトープなどの興味がもたれる展示の設置により、来園者間での交流も頻繁に見かけるようになった。今後も人と自然のみならず、人と人をつなぐ活動を継続していきたい。</p> <p>イベントは130回以上開催し、イベント満足度も過去最高を記録した。質の高いプログラムを提供することを通じて「地域の自然環境に対する興味を持つきっかけ」をつくることができた。さらに、新たに「森の学校」を開催し、「参加者が体験や交流を積み重ねることを通して、自ら学び、環境保全やまちづくり活動を実践できる場づくり」のスタートを切ることができた。一方で、発達障害を持つ子どもや外国籍の方などのイベント参加について、受け入れ体制が整わない場合もあるため、今後は、障がいに応じた内容や、多言語での対応など、新たなプログラム開発にも注力していきたい。</p> <p>今後もあらゆる人が楽しみながら学び、発見できる機会を提供しつつ、自然環境の保全に配慮した管理業務を行なっていきたい。</p>
--------	---